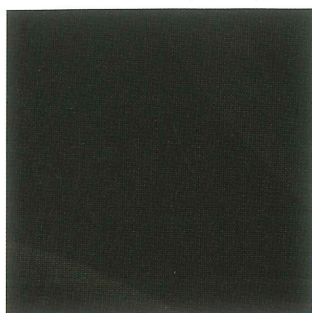
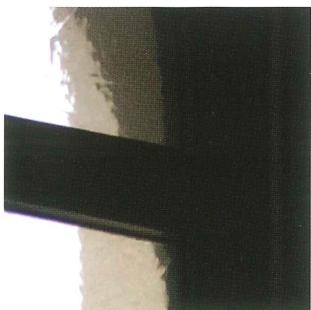
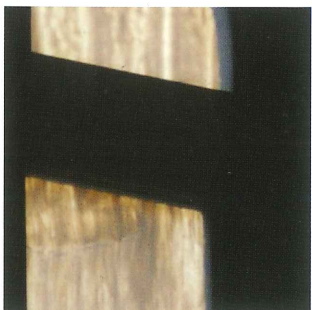
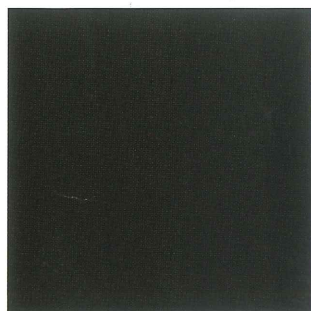
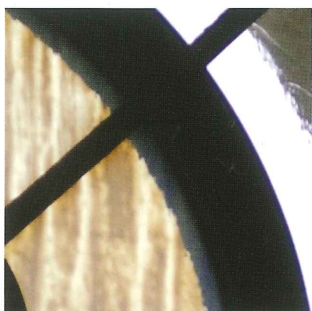
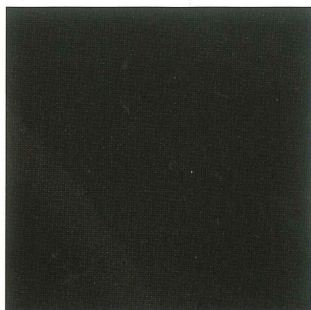
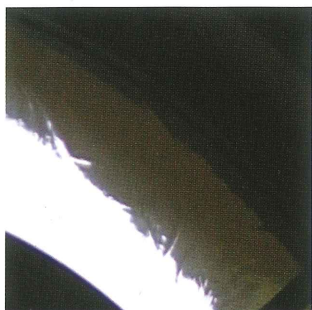


英語を教育言語とする 学士課程教育の展開

教養教育・専門教育・専門実務教育と英語教育の統合



2007年度
文部科学省
特色ある大学
教育支援
プログラム
(特色GP)



OSAKA
JOGAKUIN
COLLEGE

大阪女学院大学

取組の概要

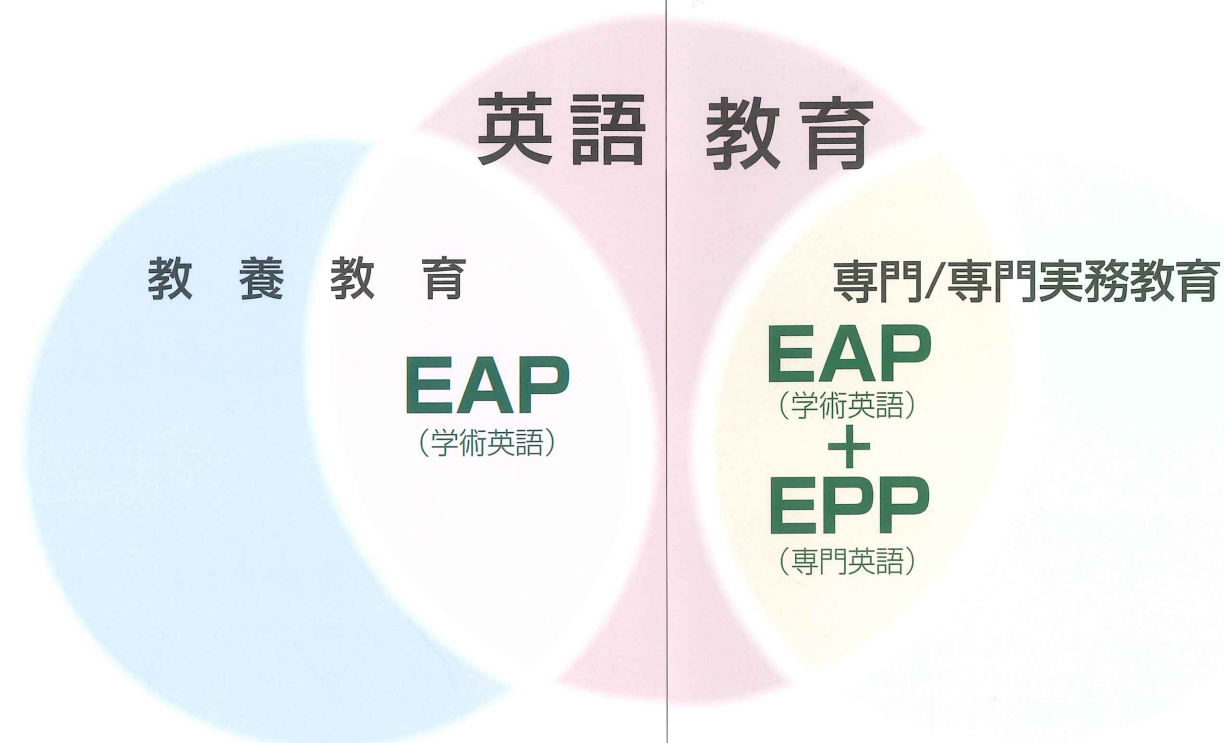
英語を教育言語とする学士課程教育の展開 教養教育・専門教育・専門実務教育と英語教育の統合

急速なグローバル化・情報化が一層進む世界において、大学は国際通用性のある高い質を保証する教育を求められている。「人格形成」という普遍的目的を大学教育の基礎として保持しながら、高い専門性を持った人材の育成を目指す意において、従来の「学部教育」は「学士課程教育」として捉え返されることとなった。

本取組は語学力の技能や知識の習得のみを目的とするのではなく、また従来の学部教育の観念にとらわれない新しい視点で、教養教育、専門教育及び英語教育を統合・融合させた教育プログラムである。

21世紀の人類課題を学びのコンテンツとする教養教育及び国際通用性のある専門的能力と専門実務能力の獲得を目指す専門教育は、共に英語を教育言語として展開される。

さらに、学習支援センターの常設やラーニングマネジメントシステム上に展開するIT学習環境等体系化された多様な支援体制を整備し、知識基盤社会の進行に対応する大学教育を展開し効果を上げている。



特色GPの 選定理由

本取組は、学部教育から学士課程教育への変換を図るべく、教養教育、専門教育、英語教育を統合・融合させた教育プログラムの構築とその展開をめざしたものです。

その核となるのは、英語を「教育言語」として行う人材育成であり、「ミニマム・リクワイアメント」による教育目標の明確化と共有、年次進行による学習能力の積み上げ、自主教材の開発、学習支援システムの設置など独自性に富み、社会で要求される「学術英語」、「専門英語」の習得を目指した挑戦が充分に感じ取れ、他の大学の参考になり得る大変に優れた取組です。

また組織性においても、アカデミックコーディネータを中心に各種の委員会が教育プログラムの進行状況を把握し、その有効性において確実な進歩が見られることも十分に評価できます。

今後、国際通用性のある高い教育の質を保証するために、「教育言語」としての英語を通した専門教育3領域の効果的配置、またそこでの目指すべき成果に向けて創意工夫を重ねられていくことを期待します。

(平成19年度「特色ある大学
教育支援プログラム」審査
結果より)



「学士課程教育」の実現をめざして

グローバル化が進行する世界において、文化の多様性を前提とした現代的課題への理解(教養教育)や、プレゼンテーション能力等の質の高い発信力を基礎とした外国語コミュニケーション能力の増進(英語教育)、また、実質的な問題解決能力の養成(専門教育・専門実務教育)が求められています。そうした関心が高まるなかで、大学は単にいわゆる専門的知識の供給に留まる「学部教育」ではなく、「学士課程教育」の実現が求められています。また、国際競争が激化している中で、教育の質の保証が強く要求されています。

このような状況と課題を見据えて、大阪女学院は「工場等制限区域」の規制緩和を機として、2004年、大阪女学院大学を開学。国際・英語学部を開設し、新しい発想で「学士課程教育」に乗り出しました。本学がミッション・ステートメントとして掲げる「社会に積極的に関わる人間の形成」に基づき、本取組を通して、21世紀の人類社会が抱える諸課題、国際社会や地域社会の課題に積極的にコミットしうるリーダーシップの担い手となる新しい女性の育成を目標としています。

この目標を達成するため、前期2年間、「21世紀の人类的課題」を学びのコンテンツに英語を教育言語として展開する教養教育と、後期2年間にやはり英語を教育言語とする専門教育を構築し、国際協働の場での担い手をめざす国際協力、国際実務の担い手をめざす国際マネジメントおよび国際的教育分野の担い手をめざす国際コミュニケーションの三群編成からなる教育課程を設定し、英語教育と教養教育・専門教育・専門実務教育を統合、融合させた「学士課程教育」としての取り組みを進めています。

教育効果を上げる工夫

①教育目標等の明確化と共有化

- ・英語科目における、到達目標・授業展開方法・教材・評価方法の比率の共有

開講前に兼任講師を含めた英語教育科目担当の全教員対象のワークショップを開催。『COLLEGE CATALOGUE』(英文160ページ)により、各科目の授業展開方法・教材・評価方法の比率の明確化・共有化を行っています。

- ・各コース専門科目の到達目標・授業展開方法・評価方法の比率の共有

専門科目における各科目の到達目標を明確化し、授業展開方法・評価方法の比率の共有化を進めています。

②体系的な教育課程

- ・教養教育、英語教育、専門教育、専門実務教育の統合・融合
- ・専門教育での学習成果を高めることをねらいとして、年次進行で、IT活用・研究調査・論理的思考・論文作成・プレゼンテーション能力の積み上げを企図

③教育の質を保証するための教育組織の編成

- ・教育課程全体を見わたすコーディネータの配置
- ・専門教育課程3コースにおけるリエゾンの配置
- ・各英語教育科目リエゾンおよび複数科目に渡る同一クラスのチームリーダーの配置

④自主教材の開発

- ・「21世紀の人类的課題」を学ぶ1年次英語必修科目教材の開発と更新

⑤習熟度別・少人数クラス編成

⑥到達度測定方法の開発

- ・英語運用力を測定するテスト(オンラインテストを含む)の開発と更新

⑦IT利用能力の養成とIT学習環境の整備

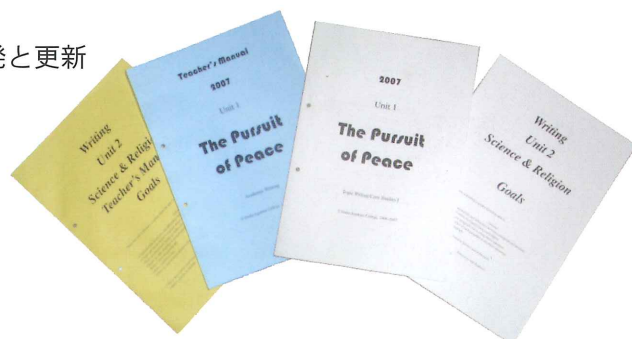
⑧学習支援システムの設定

- ・学習支援センター(Self Access & Study Support Center)の常設

⑨専門教育課程における海外プログラムの展開

- ・セメスタ留学/フィールドワーク/海外インターンシップ

国際的な業務や仕事への目的、将来、それらの分野で働くことの意義や動機づけを明確にし、学問的蓄積に加えて、実践の分野で経験を通して実際的かつ応用的能力を身につける目的で、3・4年次に実施しています。



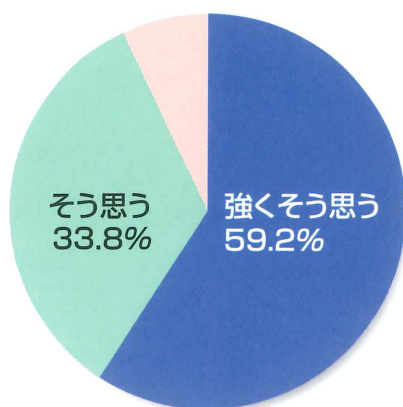
1年次英語自主教材とTeacher's Manualの一例
(Unit1 平和の追求、Unit2 科学と宗教)

学習成果

1
(2年修了時)

93.0%

の学生が2年修了時に
「世界事情についての
興味・関心が増した」と
回答しています



学習支援システムの設定【教育効果を上げる工夫⑧】

“学習サポートセンター「Self Access & Study Support Center」(略称SASSC・サッシー)”を開設して、英語学習において何らかの困難を感じている場合の解決のため、また、より発展的な学習ができるように、授業時間外に学習サポートをする体制を整えています。

SASSCでは授業の補習をするのではなく、学習に活かせる技術やヒントの獲得のために、個人指導やグループワークなど様々な手法を用いた指導を行います。

SASSC内開設サポート内容

常設

Writing Center
(英語を母語とする教員が毎日16時～20時SASSC内専用デスクに待機)

Writing スキルの向上/Writing で困難を覚える学生を援助

Tutoring (Tutorが毎日16時～20時SASSC内専用デスクに待機)

授業の予習復習等の学習方法の相談と指導

定期に開設

Grammar Center (各学期定期試験直前実施)

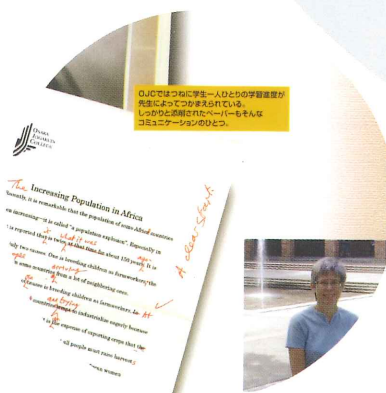
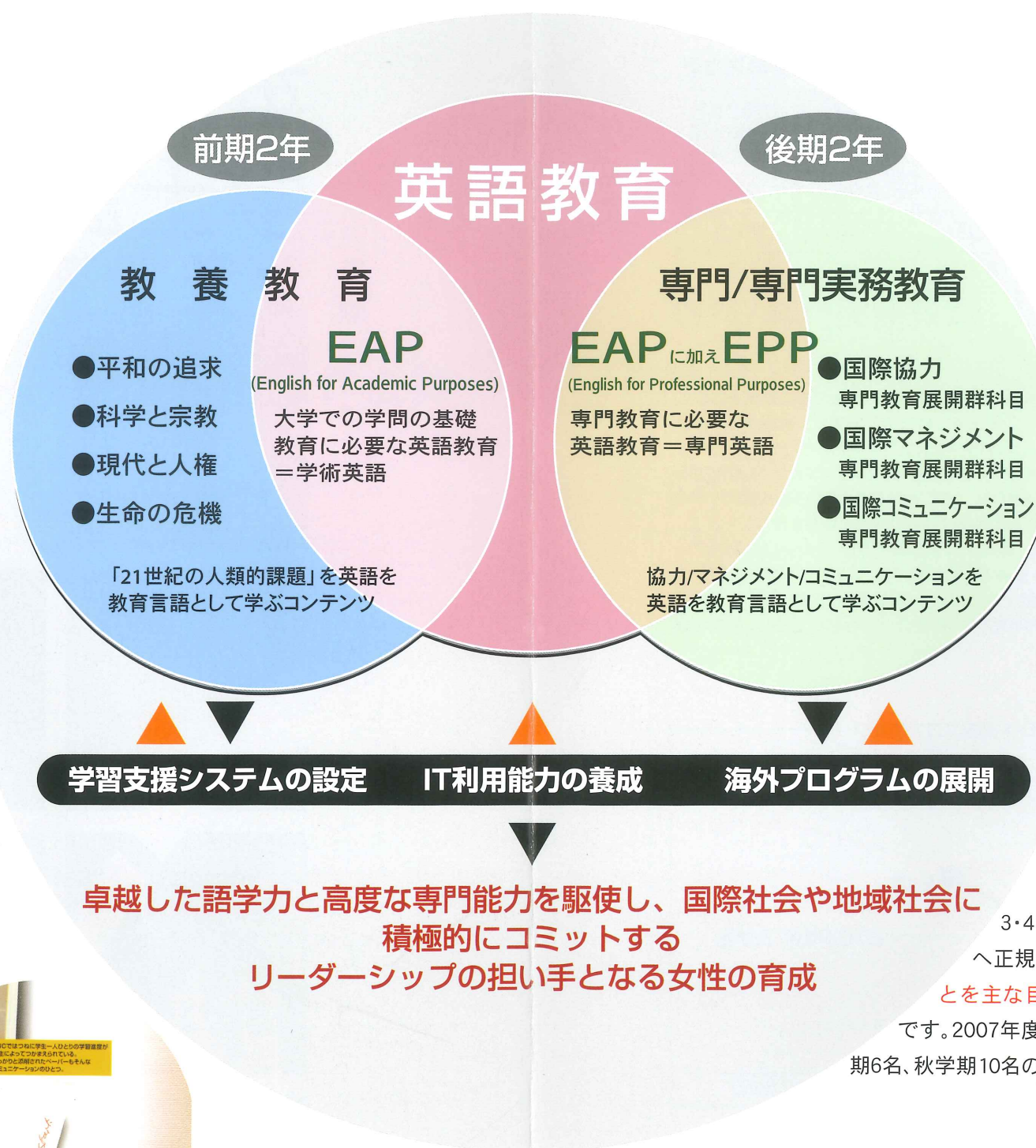
文法項目の授業とは別角度からの復習/例文の反復練習

Phonetics Exam Workshop (各学期定期試験直前実施)

Phonetics 理論に関する総復習

Reading Exam Workshop (各学期定期試験直前実施)

パラグラフやエッセイの構造/エッセイの内容理解等の総復習



専門教育課程における海外プログラムの展開【教育効果を上げる工夫⑨】

TOEIC675点(誤差範囲640点)以上を取得している学生が、夏期の6週間豪州、香港、米国等海外で就業体験する「インターンシップ」を実施。2007年度は、18名の3・4年生が豪州、NZ、香港の企業や米国提携大学事務局で英語のみを用いた就業体験に参加しました。



「フィールドワーク」(期間2週間程度)は、たとえば途上国等で困難な任務を負う人々と接し学ぶことや学齢期児童の英語教育の現場で学ぶこと等を目的に実施。ネパール、インド、ベトナム、バングラデシュ、香港、台湾へ39名(2007年度の実績9月末現在)の3・4年生が参加しています。



3・4年次の約4ヶ月間、韓国、台湾、香港、豪州、NZ、米国の本学の提携大学へ正規留学し、専門教育展開群科目に相当する科目を学習し単位取得することを主な目的とした「セメスタ留学」を実施。TOEIC675点程度以上の学生が対象です。2007年度は韓国の梨花女子大学、台湾の元智大学、香港バプテスト大学に、春学期6名、秋学期10名の計16名が参加しています。

IT利用能力の養成とIT学習環境の整備【教育効果を上げる工夫⑦】

全教室へのLAN配線に加え、計5室の情報処理学習施設と学習サポートセンター(SASSC)等の3箇所のエリアにある約200台のPCを繋いだ学内LAN(Learning Management System)を整備。Learning Management System上にWeb-CTを導入し、たとえば、一部必修科目において、シラバス・教材の掲載、電子掲示板での学生と担当者のコミュニケーション、課題の提出、オンラインテストの実施に用いるなど、学生全員が日常的に利用しています。なお、全学生に定期的に実施する英語の習熟度を測るテストもオンラインテストとして、実施しています。

オンライン上で利用できる教材はテキストだけではなく、映像・音声教材を含み、これらの教材制作にはCALL準備センター、ラーニングリソースセンターが共同して担当します。また、入学時からiPodを全員が持ち、リスニング能力の育成や、授業での利用等に活用しています。



3・4年次 英語を教育言語とした 専門教育・専門実務(専門コース) 教育の展開

英語を教育言語とする「(コース)分野別専門教育展開群科目」を設置して、国際社会に通用する実践的な英語力をもとに、コース分野別の専門知識・教養を深め、またそのスキルを身につけ、卒業後に期待される専門職業能力を育成することを目的としています。なお、併せて各コースに日本語で行う「分野別専門教育基礎群科目」を設置しています。

国際協力コース

コースのねらい

共生などの基本的視点を踏まえつつ内外の具体的な取り組みを学ぶことから、国際協力への理解と認識を深める。開発に関する理論に支えられた実践能力をもって社会に参画できる人材を育成し、卒業後は公的機関や企業において、国内外の地域社会に密着した国際的な協力および支援活動を担当する上で必要となる資質とスキルを身につける。

国際協力 専門教育展開群科目

Approaches to World Refugee Issue(難民の現代史)	NGOs/NPOs Management(非営利団体の運営)
Education for Development(自立のための教育方法)	Transcending Conflict(紛争転換法)
International Public Policy(国際公共政策)	Vegetarianism, Life, and Ecosystem(素食・生命・環境)
Multi-cultural Education(多文化教育)	Graduation Project(卒業研究)

国際マネジメントコース

コースのねらい

企業のコア部門に求められる専門知識・スキルを英語で習得する。国際水準の実践的マネジメントスキルを身につけ、外資系企業や企業の国際部門で活躍できる人材の育成を目指す。財務・人事・広報・マーケティングなど、マネジメントに必要な総合的スキルの習得を前提としたカリキュラムを構成する。

国際マネジメント 専門教育展開群科目

Female Leadership Initiative(女性の経営参画)	International Accounting & Taxation(国際財務会計)
Global Marketing(グローバルマーケティング)	International Transaction Laws(国際取引法)
Human Resource Management(人材養成マネジメント)	Risk Management & Insurance(リスクマネジメントと保険)
Intellectual Property(知的財産権)	Graduation Project(卒業研究)

国際コミュニケーションコース

コースのねらい

文化、教育、法、国際社会の知的場面で英語によるコミュニケーション能力を発揮できる人材を育成する。翻訳、通訳などの専門家、学びの現場に加え、英語指導法プログラム、新たな英語カリキュラムやテキスト開発など、効果的な教授法の研究開発や人材育成にも活きる能力を養う。

国際コミュニケーション 専門教育展開群科目

[英語教育領域]

Bilingual Education(バイリンガル教育)	Teaching English for Children(児童英語教授法)
Curriculum Design(カリキュラムデザイン)	Teaching of English Phonetics(音声指導法)
Studies in Language Testing(言語テスト法)	
Teaching English as a Foreign Language(英語教授法)	Graduation Project(卒業研究)

[通訳・翻訳領域]

Business of Interpreting(通訳の世界)	Studies in English Interpreting in Business(実務英語通訳法)
Business of Translation(翻訳の世界)	Studies in English-Japanese Expressions(日英表現研究)
Comparative Culture Studies(比較文化研究)	Translation as a Profession(実践翻訳法)
Studies in Court Interpreting(法廷通訳)	Graduation Project(卒業研究)

学習成果

2

英語を教育言語としている国際協力、国際マネジメント、国際コミュニケーションの各分野別専門教育展開群科目27クラスでのアンケート

トで、「その領域の専門的な知識を得ることができましたか」「その領域への関心が深まりましたか」について「よくできた」「できた」との回答が受講生の80%を超えたクラス数は、2006年度に開講した27クラス中の8割にあたる22クラスでした。「新たな気づきを得ることができましたか」について80%以上の肯定的な回答が27クラス中25クラスで、関心の深まりと広がりを見ることが出来ます。また、「その領域での英語運用力を伸ばすことはできましたか」について、概ね80%の学生が「よくできた」「できた」と回答したクラス数は16クラスでしたので、専門領域についての学習成果も上げつつ、専門領域での英語運用能力の獲得を学習者が実感していることがうかがえます。

「よくできた」「できた」との回答が受講生の80%を超えたクラス数



「その(専門教育展開群科目)の領域の専門的な知識を得ることができましたか」



「その(専門教育展開群科目)の領域への関心が深まりましたか」



「新たな気づきを得ることができましたか」



「その(専門教育展開群科目)の領域での英語運用力を伸ばすことはできましたか」

学習に取り組む姿勢

図書館における1年間の平均館外貸出冊数(学生一人当たり)

本学(2006年度)	国立大学	公立大学	私立大学
36.2	9.2	10.9	7.6

日本図書館協会発行「図書館年間2005」より

TOEIC-IPに見る第一期生2004年度入学生の英語運用力の伸長

第一期生2004年度入学生 TOEIC-IP(公開テスト:TOEIC OFFICIAL TESTを含む)平均スコア

	第一期生 1年次7月	第一期生 2年次末	TOEIC-IP 大学2年 平均※	第一期生 3年次末	TOEIC-IP 大学3年 平均※	公開テスト 大学全国 平均※	公開テスト 大学院全国 平均※
Listening	241	313	252	341	271	296	295
Reading	165	245	183	278	201	246	269
Total	406	558	435	619	472	542	564

※TOEIC運営委員会発行の「TOEICテスト2005 DATA & ANALYSIS」より

TOEICに見る第1期生2004年度入学生の三年間の英語運用力の伸長の事例

1年次7月の得点が450点未満の者

	1年春 学期末(7月)	3年終了時	点数の伸長
学生 A	330	755	425
学生 B	395	780	385
学生 C	410	785	375
学生 D	420	790	370
学生 E	365	725	360
学生 F	330	685	355
学生 G	445	795	350
学生 H	370	720	350

1年次7月の得点が500点程度以上の者

	1年春 学期末(7月)	3年終了時	点数の伸長
学生 I	490	800	310
学生 J	520	780	260
学生 K	520	775	255
学生 L	550	800	250
学生 M	685	875	190
学生 N	685	875	190
学生 O	600	775	175
学生 P	705	830	125

上記は一例ですが、1年次7月のTOEICの得点に関係なく、それぞれ英語運用力が伸長しています。

第一期生(2004年度入学生)が到達した英語運用力を、学生全員に受験を課しているTOEIC-IP平均スコアでみると、2年次修了時までに到達した最高点の平均は558点でした。一年次7月における得点の平均スコア406点から、152点上昇しています。その1年後の3年次修了時までに各学生が取得したTOEIC-IP(各自が任意で受験した公開テスト:TOEIC OFFICIAL TESTの結果を含む)の最高得点の平均は619点ですので、一年次7月からでは、平均213点の得点の伸長を示しています。これを、TOEIC運営委員会発行の「TOEICテスト2005 DATA & ANALYSIS」のデータと比較すると、全国のIPテスト受験者との比較では、いずれの学年時においても全国大学の平均をかなりの程度上回っています。また、TOEIC公開テストの全国大学の平均542点および全国大学院平均564点のいずれをも上回る結果となりました。

